

2026年度

国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies

Seminar Syllabus

明治大学

Meiji University

目 次 /Contents

1. ゼミナール（演習）とは何か / What is zemi?	3
2. 演習入室者選抜について（日本語版）	
スケジュール	5
申込方法と参加上の注意	6
3. Screening Information (in English)	
Schedule	7
Application procedure and Important Notes	8
4. 2026 年度開講演習一覧 / AY2026 List of seminars	9
5. 演習概要（教員別） / Individual Seminar syllabus	10～
各教員の掲載ページは「4. 演習一覧」に記載されています。	
The page number for each instructor is listed in “4. List of Seminars.”	

ゼミナール（演習）とは何か

4月1日公開予定

What is zemi?

To be released on April 1st

2. 演習入室者選抜について（日本語版）

2026年度演習入室者選抜スケジュール

1 演習入室者選抜に向けた全体ガイダンス/演習紹介動画 配信

日程：3月上旬（予定）

方法：[WEB配信](#)

※各演習の開講パターンや募集対象学年等についても同時期にご案内します。

2 入室者選抜スケジュール

① 一次選抜

4月1日（水）～4月3日（金） * 日時及び詳細は3月上旬に公開 * オンラインで実施	演習個別ガイダンス *希望する演習のガイダンスは必ず参加・視聴すること。 *二次選抜期間にはガイダンスを実施しないため、興味のある演習が複数ある場合にはそれら全てのガイダンスへの参加を推奨する。
4月1日（水）12時00分～ 4月3日（金）23時59分	一次申込み期間 * 各演習のクラスウェブから申し込み
4月5日（日）～4月6日（月）	一次選抜
4月8日（水）	一次選抜入室者発表

② 二次選抜（一次選抜落選者・未申請者対象）

4月9日（木）	二次申込み * 各演習のクラスウェブから申し込み
4月15日（水）までの 教員が指定した日付	二次選抜
4月15日（水）まで	二次選抜入室者発表

※ 二次入室試験以降の募集は行わない。

③ 入室者の履修登録について

選抜者の履修登録は事務局が履修登録の確定日までに行います。

二次選抜で入室する学生は演習が実施される曜日時限に他の科目を登録しないようご注意ください。

2. 演習入室者選抜について（日本語版）

演習入室者選抜 参加上の注意

受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

- 1 各演習の募集人員は、10～21名です。
- 2 事前に演習総合ガイダンスをご確認ください。
- 3 入室者選抜への申し込みは、各演習のクラスウェブページにて行います。
参加を希望する演習に仮参加をした上で、各申込み期間内にクラスウェブ内にある「申込者用アンケート」に回答してください。
締切厳守。期限を過ぎた場合、申し込みをすることはできません。
- 4 締切後に演習担当教員から選抜内容の案内があります。お知らせを見逃さないよう注意してください。
- 5 演習入室者選抜に関する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji で配信します。演習入室者選抜実施期間中は、随時確認するようにしてください。
- 6 同一募集期間内に2つ以上の同じアルファベットの演習に申し込むことはできません。複数の同一アルファベットの演習を受験した者は、すべて無効（不合格）となります。
- 7 合格が決定した者は、それ以降の同一アルファベットを持つ演習への受験資格を失います。

Schedule for New Sophomores and Juniors

1 Online videos: Seminar Screening Guidance Video / Seminar Introduction Videos

The videos will be available from **Early March** on our [website](#).

*Opening pattern of each seminar and the grades for which students are accepted will also be announced at the same time.

2 Seminar Screening

① Screening: Period 1

- April 1(Wed.) ~ April 3(Fri.) * Date, time and details to be released in early March * Conducted online	<i>Seminar introduction for each seminar</i> *Please be sure to attend and watch the guidance for the seminar of your choice. *As guidance is not provided before the second selection period, you are encouraged to participate in all the introductions in which you are interested.
From 12 pm (noon), April 1(Wed.) to 11:59 pm (night), April 3(Fri.)	Application for screening: Period 1 *Apply via Oh-o! Meiji Classweb
- April 5(Sun.) ~ April 6(Mon.)	Screening: Period 1
By 12 pm (noon), April 8(Wed.)	Announcement of screening results for Period 1

② Screening: Period 2

(For students who did not pass or did not apply in Period 1)

April 9(Thu.)	Application for screening: Period 2 *Apply via Oh-o! Meiji Classweb
April 10 ~ April 15 *The teacher will specify the date	Screening: Period 2
By April 15	Announcement of screening results for Period 2

3 About the Course Registration for Seminar Classes

Registration for the selected students will be done by the office on or before the registration confirmation date.

Please note that students who will be admitted for Screen Period 2 should not register for other courses on the days and times when the seminar will be held.

2. About the Seminar Screening

Notes for application

Please make sure to read before you apply.

1. Each seminar will accept up to 10 to 21 students.
2. Please be sure to check the general guidance video in advance.
3. Applications for admission selection will be made on the class web page for each seminar. After self-enrolling in the seminar you wish to join, please complete the prescribed procedures within the respective deadlines.
4. Deadlines are strictly enforced. Applications will not be accepted after the deadlines have passed.
5. We will send you all notices with Oh-o! Meiji, so please check your messages regularly.
6. You may not apply for two or more seminars with the same alphabet during the same application period. If you apply for multiple seminars with the same alphabet, all your applications will be considered invalid.
7. Those who have been accepted will lose the eligibility to apply for any other seminars with the same alphabetical group thereafter.

2026年度 演習一覧
AY2026 List of seminars

No.	担当者氏名 Lecturer	職名 Title	テーマ Theme	開講言語 Language	ページ
1	青山 拓実 Aoyama, Takumi	特任講師 Senior Assistant Prof.	応用言語学の視点から学校における英語教育を考える	日本語と英語 Japanese & English	10
2	呉 在垣 Oh, Jewheon	教授 Prof.	日本企業の研究	日本語 Japanese	12
3	大須賀 直子 Osuka, Naoko	教授 Prof.	翻訳を通して考える言語と文化	日本語 Japanese	13
4	小笠原 泰 Ogasawara, Yasushi	教授 Prof.	デジタルテクノロジー革新とグローバル化による世界のGRAND TRANSFORMATIONについて考える	日本語 Japanese	14
5	小野 雅琴 Ono, Makoto	准教授 Associate Prof.	広告の理論を学び、実証する	日本語 Japanese	16
6	岸 磨貴子 Kishi, Makiko	教授 Prof.	共生とコミュニケーションに関するアートベース・リサーチ	日本語 Japanese	17
7	金 ゼンマ Kim, Jemma	教授 Prof.	グローバル化とアジア太平洋の政治経済	日本語 Japanese	18
8	クエク, マーリ Quek, Mary	特任准教授 Associate Prof.	Project based learning in the hospitality and travel industries	英語 English	19
9	小谷 瑛輔 Kotani, Eisuke	教授 Prof.	近現代日本のコンテンツ・メディア・物語	日本語 Japanese	21
10	小森 和子 Komori, Kazuko	教授 Prof.	第二言語としての日本語の語彙習得	日本語 Japanese	22
11	佐藤 郁 Sato, Iku	講師 Senior Assistant Prof.	観光による地域活性化・地域プロモーション	日本語 Japanese	23
12	鈴木 賢志 Suzuki, Kenji	教授 Prof.	スウェーデンの社会システムから学ぶ	日本語 Japanese	25
13	瀬川 裕司 Segawa, Yuji	教授 Prof.	高度な批評能力を身につける	日本語 Japanese	26
14	田中 牧郎 Tanaka, Makiro	教授 Prof.	日本語の謎を解く	日本語 Japanese	27
15	張 佳能 Zhang, Canon	講師 Senior Assistant Prof.	文化・芸術諸学を一緒に考えなおす	日本語 Japanese	28
16	長尾 進 Nagao, Susumu	教授 Prof.	スポーツと社会	日本語 Japanese	29
17	萩原 健 Hagiwara, Ken	教授 Prof.	ドキュメンタリー演劇の制作 Creation of Documentary Theatre	日本語と英語 Japanese & English	JPN:31 ENG:32
18	馬場 小百合 Baba, Sayuri	准教授 Associate Prof.	日本の古典文学の精読	日本語 Japanese	33
19	ピニロス マツダ, デレク K. Pinillos Matsuda, Derek K.	准教授 Associate Prof.	国際教育学・異文化間教育学：移動・実践・批判的思考から学ぶ	日本語と英語 Japanese & English	34
20	平井 達也 Hirai, Tatsuya	教授 Prof.	多文化ファシリテーションとインクルーシブリーダーシップ Intercultural Facilitation/Inclusive Leadership	日本語と英語 Japanese & English	35
21	廣森 友人 Hiromori, Tomohito	教授 Prof.	外国語学習の科学：理論・研究・実践	日本語と英語 Japanese & English	37
22	藤本 由香里 Fujimoto, Yukari	教授 Prof.	サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会	日本語 Japanese	39
23	眞嶋 亜有 Majima, Ayu	准教授 Associate Prof.	学際的日本研究～ゼミでGlobal Japanese Studiesを極めてみる～	日本語 Japanese	40
24	溝辺 泰雄 Mizobe, Yasuo	教授 Prof.	Twende —— 世界を歩き、感じ、かたちにするゼミ	日本語 Japanese	42
25	美濃部 仁 Minobe, Hitoshi	教授 Prof.	哲学	日本語 Japanese	44
26	宮本 大人 Miyamoto, Hirohito	教授 Prof.	メディアと大衆文化/サブカルチャー	日本語 Japanese	45
27	森川 嘉一郎 Morikawa, Kaichiro	准教授 Associate Prof.	マンガ・アニメ・ゲーム/デザイン/都市	日本語と英語 Japanese & English	JPN:46 ENG:48
28	山脇 啓造 Yamawaki, Keizo	教授 Prof.	多文化共生のまちづくり	日本語 Japanese	50

青山 拓実 特任講師

1. 演習のテーマ / Theme

「応用言語学の視点から学校における英語教育を考える」

皆さんから見て、日本の学校における英語教育は成功しているのでしょうか？それとも失敗しているのでしょうか？日本の学校における英語教育は、しばしば教育現場で実際に行われている取り組みに対する無理解や個人の主観的な学習経験に基づく批判にさらされ、正しい現状の理解や客観的な視点からの建設的な議論が十分に行われていない側面があります。本演習では、学校における英語教育について、応用言語学の学問的知識に基づく客観的かつ適切な視点を獲得し、建設的な議論を行うことができるようになることを目指します。このテーマは将来英語教員を目指す者だけにとって有益なものと考えられがちですが、それ以外の皆さんの将来的な立場（例えば民間企業や公的機関の構成員、さらには学校に通う児童生徒の保護者）からも向き合う可能性のあるテーマです。このゼミを通して、学校での英語の学びについて一緒に考えてみませんか？

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

毎時間の授業前半では、受講生が各自持ち寄った資料を基にした教育や英語指導に関する議論を行います。その後、授業の後半では書籍や論文の購読と発表・ディスカッションを通して応用言語学に関する理論や研究法について学びます。また、フィールドワークとして小・中・高等学校で実際の授業を観察し、現場の先生方と議論する機会や、実際に授業内での指導や学習支援の実践の機会を設定します。これらの活動に加え、同様のテーマを扱う他大学と合同ゼミの開催を計画しています。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

2026年度は演習A・Bのみの開講となるためゼミ論はありませんが、2027年度の演習C・Dでは研究や指導実践に基づくゼミ論の作成を検討しています。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席、ゼミ内での活動状況（グループワーク、話題提供、発表など）、レポートによって成績評価を行います。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

受講者の興味・関心に合わせ、初回授業で使用テキストを決定します。資料は授業内で適宜配布する物に加え、受講生が各自持ち寄ったものを使用します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

学校教育や英語授業を主なテーマとしていますが、受講生は必ずしも英語教員を目指す必要はありません。幅広い視野を持ち、将来的に様々な立場から演習での学習内容を広く社会に還元することに興味を持つ方を歓迎します。

5. 選考方法 / Screening

エントリーシートとそれに基づく面談のうえで受け入れを決定する。2027年度の演習C・Dの受講を見据えた選考を行う。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

本演習に関連する英語領域の科目（応用言語学，心理と言語，英語学，語用論など）を受講済みであること，もしくは演習と同時に受講することを推奨します。

7. その他 / Others

呉 在焜 教授

1. 演習のテーマ / Theme

この演習は、日本企業のさまざまな活動について文献を購読し、ディスカッションすることによって、日本企業についての理解を深めるとともに、自分のテーマ研究を行うことによって問題設定と問題解決の方法論を学ぶことが目標です。そのためにまず日本企業のマーケティング活動や経営戦略、国際化・国際経営に関する文献を購読します。製造業だけではなく小売業やサービス業など様々な業種の事例を扱う文献を読み、日本企業の経営方式や雇用システムなどの特徴について勉強します。

そしてこのような学習の過程で自分の関心・興味のある分野（「テーマ」）を決め、その不思議な現象について「問い」を立て、それをしかるべき研究方法に沿って研究していきます。このテーマ研究の成果は論文の形式、あるいはプレゼンテーション形式（パワーポイント資料）にまとめて提出します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B / Seminar A・B>

3年次の春学期には、身近な事例を扱っているマーケティング関連文献（書籍）を読みます。3年次の秋学期には、多くの業種の事例を取り上げて経営戦略について説明している文献を購読します。毎回、一人あるいは二人が担当部分の要旨を報告し、皆でディスカッション理解を深めるように進めていきます。

<演習 C・D / Seminar C・D>

4年次の春学期には、日本企業の国際化と海外事業経営に関する文献を読み、日本企業のグローバル経営について学習します。秋学期はテーマ研究に集中して取り組みます。各自が自分のテーマ研究の進捗状況に合わせて報告を行い、コメントをもらって修正・補完して行きます。演習の終わりには、ゼミ合宿をしながら最終報告会を行います。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり（論文の形式あるいはパワーポイント形式）

(3) 評価方法 / Evaluation

<演習 A・B / Seminar A・B> 平常点（40%）、発表（60%）で行う。

<演習 C・D / Seminar C・D> 平常点（20%）、発表（30%）、論文（50%）で行う。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

3年次の春学期には、『マーケティングを学ぶ』石井淳蔵著、発行：ちくま新書。

3年次の秋学期には、『ゼロからの経営戦略』沼上幹、発行：ミネルバ書房。

4年次の春学期には、『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕（編）、発行：白桃書房。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

企業経営に関心をもち、積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

書類審査（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。留学中の場合は別途案内します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

学部開設科目の「経営学 A/B」を履修しておくことが望ましい。

7. その他 / Others

3年次の夏休みに海外合宿か国内合宿（9月）、4年次の年明けには国内合宿を行う。

大須賀 直子 教授

1. 演習のテーマ / Theme

翻訳を通して考える言語と文化

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

1年間限りのゼミとなります。2年生、3年生、4年生を対象とし、合同で授業をおこないます。

実際に翻訳をおこなうことが中心となります。春学期は、児童文学、ミステリーなどを訳して翻訳技術を磨きます。また、字幕翻訳の基礎を学び、実際に練習します。春学期の終わりには、各自が翻訳したい本または映画を選び、シノプシス（一種の企画書）を作成し、プレゼンテーションをおこなって秋学期に共同で翻訳する作品を選びます。秋学期は、完成度の高さにこだわって、グループで協働して1つの本または映画を完訳します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

ありません。

(3) 評価方法 / Evaluation

平常点（20％）、発表（30％）、翻訳（50％）でおこなう。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

授業内でその都度配布します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

担当である・なしにかかわらず、翻訳の課題は必ずやってくる。課題の締め切りを守る。授業内では積極的に発言すること。無断欠席は厳禁。

5. 選考方法 / Screening

筆記試験とアンケート

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

「言語と文化 A」を事前または同時に履修していただくと、翻訳にたいする理解が深まると思います。

7. その他 / Others

小笠原 泰 教授

1. 演習のテーマ / Theme

デジタル・テクノロジー革新とグローバル化による世界の Grand Transformation について考える - 20年後に SURVIVE しているためには -

AI に代表される「デジタル・テクノロジー革新と融合したグローバル化」により社会を開いたことで、個人と企業がよりパワーを獲得する一方、国家はパワーを失ってきています。昨今の安全保障を盾とした国家のパワー回復の試みはありますが、政治家の考えるほど世界は単純ではなく、むしろ政治は劣化しているので、国家のパワーの減衰は基本的に避けられないと思います。この国家と企業と個人の3者間のパワーバランスのシフトを基礎認識として、ゼミ生各自が「20年後に SURVIVE しているために」を考えていきます。詳細はシラバスで確認をしてください。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

本演習は演習 A, B, C, D とつながる二年間の持ち上がり形式でおこなうので、今回の演習募集は、演習 A になります。

◎ 本演習は、3年次 A と B と 4年次 C と D 及び特別演習 A と B を履修することを前提とします。

◎ 対面出席を基本とし、無断欠席は厳禁とします。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

ゼミ論はありません。代わりに二年次後半に卒業に向けてのグループ発表を行います。

(3) 評価方法 / Evaluation

<演習 A・B> <演習 C・D>

定期発表 (40%)、議論への参加・貢献度 (30%)、各期終了レポート (30%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

適宜指示します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

グローバル化と加速するテクノロジー革新の中で、そのダイナミックな変化に興味を持ち、知的好奇心が旺盛で、多様性を受け入れられる学生を望みます。具体的に望む応募学生は、知的好奇心が強い、頭をフルで回してみたい、脳みそが汗をかく感覚を味わいたい、今の社会が居心地が悪いと感じている、自分の能力を試したい、氾濫する情報に惑わされたくない、世界が動くマクロな構造に興味がある、多様化と

は何かを知りたい、メンタルが強くなりたい、終生の仲間が欲しい、です。要は、多様な人材が欲しいです。

応募する人は、AIをはじめとしてデジタル・テクノロジーの急速な変化についての感度を高めておいてください。そして、ニュースやマスコミで多用されるグローバル化とポピュリズムとは、一体何を意味しているのかについて考えてみておいてください。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

- ◎ 本演習の募集対象は3年生と2年生とします。
- ◎ しかし、本演習は主に3年生で構成する予定のため、2年生の入室者は若干名とします。
- ◎ 2年生に関しては、以下の条件を応募要件とします。
 - ・2年生の入室応募者については1年次に「国際日本学実践科目」(担当：小笠原)、「組織マネジメントと文化」、「基礎演習」を履修していることを原則とします。
- ◎ 応募者の選抜は、面接で行います。面接は4月5日(日曜日)に行う予定です。

6. その他 / Others

特にありません。

小野 雅琴 准教授

1. 演習のテーマ / Theme

広告の理論を学び、実証する

本ゼミでは、文献講読（理論）やケースメソッド（実践）などを通じて、広告やマーケティングに関する理論を深く学びます。さらに、統計解析の技法を習得し、それを活用して実証研究に取り組みます。広告が人々に与える影響やマーケティング施策の効果を探究し、論理的に考える力を鍛えることを目標としています。広告やマーケティングに興味があり、主体的に挑戦したいという皆さんの参加をお待ちしています！

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B>

1年目は、インプット期間です。理論を身に付けるということがどういうことかをオススメ論文の輪読によって体得します。他方、実証を行えるようになるためにフリーソフトRを用いて実習を行います。

<演習 C・D>

2年目は、アウトプット期間です。各自が興味を持った論文を探し、その中で提唱されている最新の理論を紹介します。その上で、自分自身のオリジナルな仮説を提唱し、それを実証する卒業論文を執筆します。このプロセスを通じて、研究の実践力や論理的思考力を磨くことを目指します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席状況、ゼミにおけるパフォーマンス（参加姿勢、課題提出、口頭発表、グループワークなど）、および卒論（演習C・Dのみ）によって成績評価を行います。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

全員に購入していただくテキストはありません。参考書はその都度紹介します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

ゼミの皆さんには、2年間にわたって広告の理論実証研究を遂行するための強い持続力、そして、同じ目標に向かって歩む同期生と協働しようとする高い協調性を望みます。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考を行います。面接に先立って、志望理由や自己PRに関するエントリーシートを提出していただきます。なお、個別ガイダンスには必ず出席してください。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

特にありません。入室前よりむしろ入室後の学習姿勢に期待します。

7. その他 / Others

テーマ

アートでひらく共生とコミュニケーション



岸ゼミは、映像、写真、イラスト、ビジュアルアート、詩、演劇、小説、漫画、コラージュ、ダンスなどのさまざまなアート表現を通して人や社会を多角的・多層的に探究(アートベース・リサーチ)するコミュニティです。

「自分の問いをカタチにする」を軸に、個々の関心や疑問を追求、共有しています。社会課題を映像にまとめたり、自己の経験を詩や演劇で表現したり、他者との対話を通じて新しい視点を発見したりします。



ゼミ履修

1年完結 ▶春学期：演習 A・C / 秋学期：演習 B・D
クォーター制のため、留学予定の学生は、
S1 / S2、F1 / F2 で履修可能です。

ゼミ募集

- 9期生の定員は、15名です。こんな人におすすめ！
- ▶誰とでも話せる、どこでも寝れる、何にでも挑戦できる。
 - ▶アートを使って社会や自分を深く探究したい
 - ▶ABRワークショップを実施したい
 - ▶自分の思いや考えを新しい形で表現してみたい
 - ▶他者との対話を通じて新しい発見をしたい
 - ▶未来の教育や社会課題に関心がある

授業

- 以下の授業のうち履修可能な科目を受けてください。
- ▶メディアのデザイン→メディアリテラシーA&B
 - ▶場のデザイン→インターネットと社会
 - ▶教育・学習環境のデザイン→教育の方法と技術
 - ▶コミュニケーションのデザイン→共生と学びのデザイン論

その他



ゼミ中の雰囲気を知りたい
→kishiseminar.meiji



ウェブ1▶
◀ウェブ2



岸先生のことを知りたい▶

場のデザイン×ICT岸



金ゼンマ 教授

1. 演習のテーマ

グローバル化とアジア太平洋地域の政治経済

アジア太平洋地域における政治経済を勉強するゼミです。本ゼミでは、二国間自由貿易協定(FTA)、ASEAN+3、環太平洋経済連携協定(TPP)など重層的に進展するアジア太平洋の地域統合への動向を踏まえ、リージョナリズムの現状と今後の課題について分析する視点を養います。さらにそうした視点を踏まえて、東アジアを含む広義のアジア太平洋地域における国際関係の変化やグローバル化への各国の政策的対応の相違と共通性について、論点の理解を深めることを目的とします。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

毎回、担当者2名が指定文献の担当内容についてレジュメを作成し、発表します。コメンテータ2名は、文献に関連したコメントやディスカッションのための質問を提供します。報告レジュメは、報告の三日前までにはゼミのメーリングリストに送り、報告当日にディスカッションを全員参加で行えるようにします。報告とコメント、ディスカッションの使用言語は、英語でも日本語でもかまいません。

<4年次>

3年次で得た知識を踏まえ、各自の興味のあるテーマについて調査・研究を行い、卒業論文を作成します。二か月に一度の割合で卒論について発表し、ゼミでのフィードバックを通じて論文を修正・発展させていきます。卒論は、英語でも日本語でもかまいません。

(2) ゼミ論の有無

研究発表とゼミでの議論を踏まえて、ゼミ論を作成し提出していただきます。

(3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)

<4年次> 平常点(20%)、プレゼンテーション(20%)、論文(60%)

3. 使用テキスト

適宜指示します(英語と日本語の文献)。

4. 応募学生に望むこと

いま、アジア太平洋地域の政治経済において何が問題となっているのか、知的好奇心を持って積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

5. 選考方法

小論文(研究テーマ・応募理由)と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

アジア太平洋地域の政治経済情勢に興味を持ち、日々の国際ニュースに接しておくことを期待します。

7. その他

本ゼミでは、実践的な視点を養うための、フィールドワークや合宿を行う予定です。韓国の高麗大学・延世大学・西江大学との合同ゼミがあるなどイベントが豊富で、頑張れば頑張るほど得るものが大きくなるゼミです。

Mary Quek Associate Prof.

1. 演習のテーマ / Theme

Project based learning in the hospitality and tourism industries.

Japan tourism development has experienced an exponential growth in the past years. This course is designed to provide students with an insight into and understanding of the nature of hospitality and travel businesses. Students will be working in small task groups to fulfil a remit in consultation with a hospitality or travel organization, and design and conduct appropriate research to complete their task. The course enables students to apply knowledge acquired and develop further the skills of research, team working, time management, communication and decision-making.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3 年次 / 3rd Year>

Students work on a problem-based project given by a hospitality or tourism company.

<4 年次 / 4th Year>

Students might work on a problem-based project given by a hospitality or tourism company, or an over tourism related project by exploring less visited places in Tokyo.

(2) ゼミ論の有無 /Thesis

Not required

(3) 評価方法 / Evaluation

< 3 年次 / 3rd Year > 50% Attendance and Participation. 50% assignment.

< 4 年次 / 4th Year > 50% Attendance and Participation. 50% assignment.

3. 使用テキスト / Textbook(s)

No textbook.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

- 1) The seminar sessions will be in English. Students should have adequate English language skills to do well in this course.
- 2) Students need to obtain a GPA of 2.5 and above to apply to this Seminar
- 3) Applicants need to be interested in the hospitality and travel businesses.
- 4) Applicants need to like people and enjoy working with people weekly. The projects are based on group work.
- 5) Students are expected to participate actively in all activities and embrace teamwork.
- 6) Students are required to attend seminar sessions regularly and be punctual for class.
- 7) Any student who is absent twice or more times, except for absences that fall under documented emergencies, will receive a failed grade

5. 選考方法 / Screening

A short essay and an interview via zoom.

Students will submit a short essay in English describing "Why I want to join Quek Zemi"

*Submit by April 3rd at 12pm

Specifically: Arial font; Font size 12, 1.5 spacing, 200 words (+/-10%).

One-on-one interview on April 5 & 6. Interview date and time will be sent individually to applicants

Please provide an email address you check and use frequently in your essay.

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

None

7. その他 / Others

-This syllabus/schedule may change depending on participant numbers and the project commissioned by industry practitioner.

-The seminar may offer excursions to experience fieldwork.

-Students will incur small out-of-pocket expenses

小谷 瑛輔 教授



1. 演習のテーマ / Theme

近現代日本のコンテンツ・メディア・物語

このゼミでは、近現代日本の出版物に発表された物語性を持つテキスト・批評的テキスト・それらを掲載するメディア・関連する文化事象などを対象として、文学研究やそれと関わる多様なアプローチから、各自の関心のもとに研究していきます。テキストだけでなく、その背景にあるコンテキストやメディアをも含めて総合的に分析する力を養いつつ、相互の関心や知識から学び合います。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

本ゼミは、2年間持ち上がり形式です。

<演習 A・B>

扱うテキストを選ぶ担当者を1回ごとに決め、その人が決めたテキストについて、読んできた参加者全員でディスカッションする、という形が基本となります。担当者は調査や研究の成果を発表して、その研究内容についてみんなで検討していきます。読むテキストをゼミ生が選び、ゼミ生が司会し、ゼミ生同士でディスカッションするのが中心です。通例、教員がコメントするのは授業の最後の15分程度だけです。また、ゼミ生の関心やアイデア次第で、学びの幅を広げるための多様な活動を取り入れていくこともできます。

<演習 C・D>

演習 A・B と同様に、幅を広げて多様な対象を扱い、より掘り下げて議論していきます。

<特別演習 A・B>

卒論に取り組む人（希望者のみ）は、「演習」に加えて、大学院生とともに互いの研究について報告し合い議論し合うことのできる「国際日本学特別演習 A/B」を履修し、そこで自身のテーマについてもディスカッションを行い、さらに教員の助言やサポートを受けながら、卒論の完成を目指します。

これまでの卒論例

- ・スライム表象の歴史から見る「転生したらスライムだった件」について
- ・太宰治「走れメロス」と「勇者」について
- ・「ボッコちゃん」改訂の変遷からみる星新一の表現
- ・川端康成と中原淳一が生み出す「少女」像

(2) 評価方法 / Evaluation

演習 A・B、演習 C・D ともに平常点（50%）、発表（50%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)

基本的には、毎回、発表者が選んだテキストを参加者全員で読んでいきます。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

活発にゼミにコミットする学生の応募を期待します。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

入室希望者の関心を面接によって確認の上、入室を決定します。

6. その他 / Others

自分が掘り下げて研究してみたいことを、色々な本を読みながら探っておきましょう。

ゼミ行事は年ごとに履修者の希望に応じて決めます。2025年度は各学期の節目の懇親会や、文学ゆかりの料理作り会、ゼミ合宿、明大祭への参加などを行いました。

小森 和子 教授

1. 演習のテーマ / Theme 【第二言語としての日本語の習得と教育】

「お客さま、こちらにお名前をお書きください」というのは丁寧で自然な日本語ですが、「先生、推薦状をお書きください」というのは、失礼な印象を与えます。どちらも敬語を使っているのに、後者はなぜ失礼な印象なのでしょう。また、日本語学習者は「*昨日葉を食べました」と言ってしまうことがあります。なぜこのような間違いをするのでしょうか。

この演習では、留学生のための日本語の授業に参加したり、文献講読などを通して、日本語の難しさ、日本語と他の言語の違いについて考えていきます。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B:3 年次>:実践と理論

実践と理論を組み合わせ進めていきます。

(1)実践編

留学生が履修している日本語の授業に数回程度参加し、留学生が日本語の何に難しさを感じているか、どのようにサポートしてあげると良いか、を考えます。実践は演習 A（春学期）も演習 B（秋学期）も行います。

(2)理論編

演習 A（春学期）は、さまざまな日本語のなぜ？を取り上げ、日本語ではどうしてそのように言うのか・言わないのかについて、認知言語学の理論を通して、考えます。演習 B（秋学期）は、春学期の学びを基に、グループで研究計画を立て、データを収集、分析して、日本語のなぜ？の答えを探していきます。

<演習 C・D:4 年次>:卒業研究

春学期は、卒業研究を組み立てるための準備として、先輩の卒業論文やその他の論文の輪読と発表を行います。また、卒業論文の書き方も学びます。秋学期は、各自で、あるいはグループで、卒業研究を立てて取り組みます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

卒業研究の成果として、ゼミ論を書くことを推奨します。また、論文でなくても、留学生のための日本語のアプリや教材を開発しても良いです。

(3) 評価方法 / Evaluation

留学生クラスへの貢献度、授業参加度、発表・議論から総合的に評価します。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

授業開始時に指定します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

日本語に限らず、言語表現の不思議や違いについて考えたい人、日本語教育に興味がある人、将来大学院進学を考えている人、大歓迎です。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

「日本語教育学（語彙）」を履修しておいてください。

佐藤 郁 専任講師

1. 演習のテーマ / Theme

<観光による地域活性化・地域プロモーション>

本演習の目的は、地域の特性や魅力を調査・分析し、「地域の個性」を磨いて発信する力を身につけること、そしてフィールドワークやワークショップを通じて、観光の本質である「地域との関わり」への理解を深め、異なる立場や範囲から物事を多角的に捉える視点を養うことです。同時に、本ゼミでは学生が主体となり、地域や企業と連携した PBL(Project-Based Learning)型の実践的な学びを通じて、チームワーク、発想力、企画力、交渉力、プレゼン力(想いを伝える力)の習得を目指します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B : 3年次 / 3rd Year>

前半は、地域の分析手法やアイディエーションの思考法を学ぶグループワーク、中野区観光レポーター活動、観光交流施設でのフィールドワークなどを実施し、観光の地域での役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。後半からは、自治体や企業と連携した課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、チームに分かれて地域活性化・プロモーションに関するプロジェクトの企画・立案・プレゼンテーションを実施します。

<演習 C・D: 4年次 / 4th Year>

観光や地域活性化に関する研究テーマを設定し、ゼミ論文にまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり (4年次)

(3) 評価方法 / Evaluation

<演習 A・B> 平常点、グループワーク、発表及び議論への貢献度により総合的に評価する。

<演習 C・D> 平常点、発表、議論への貢献度、論文により総合的に評価する。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

特になし (その都度指定する)

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

地理の基礎的な知識があることが望ましい。(3年次は特に) グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を希望します。また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。

い。授業時間外で地域視察を行う場合もあります。また、希望により授業時間外に複数の任意参加のプロジェクトを設定することがあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

5. 選考方法 / Screening

志望理由書、エントリーシート、自己PR動画による。2年次秋学期までの成績も参考にします。追加で面接を実施することがある。(詳細は個別ガイダンスで説明します)

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

ツーリズム・マネジメント AB を履修しておくことが望ましい。観光や地域活性化に関わるニュースや書籍に興味をもち、常にアンテナを張っておいてください。

7. その他 / Others

- 連携機関の都合や受講生の要望等により、連携先や活動内容を変更することがあります。
- 大学 OBOG 会と連携した地域フィールドワーク (サブゼミ「熊本プロジェクト」) のほか、希望により 3-4 日程度のゼミ合宿を実施します。ゼミ合宿はチームによるコンペ形式で、ゼミ内に模擬旅行会社を設立し、地域の個性を活かしたオリジナルツアーの企画・運営までを学生が主体となって行います。
- 学年ごとのイベントのほか、3-4 年生合同イベント、4 年生による就活相談会など、学生からの発案により様々なゼミ内イベントを実施しています。

佐藤ゼミでは、基本的に卒業まで 2 年間同じメンバーで学び、チームを創り上げていきます。共創型ディスカッションを通じて、チームでゼロから新たなアイデアや価値をつくるプロセス、未来志向のビジネスや地域活性化に興味のある方を歓迎します。

鈴木 賢志 教授

1. 演習のテーマ / Theme

「北欧諸国の社会システムから学ぶ」 本演習は、北欧諸国（主にスウェーデン）と日本の社会システムに焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、北欧諸国の社会システムについて学び、それを日本に発信するとともに、日本の社会システムと比較し、共通点や相違点を明らかにする。さらに、北欧諸国を手本あるいは反面教師として、日本が得られる教訓や課題について考察する。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

本演習は、本年度より 1年完結とする。

※ 昨年の演習案内に「2026年度には、研究分野を2つに分け（演習 A/B は政治・教育・福祉、演習 C/D は経済・環境・ビジネス・働き方）、それぞれ1年完結の演習を並行して実施する予定である。」と記したが、2025年度の実施状況を踏まえて、下記の通りに変更する。

[演習 A/B] 北欧諸国の全般的な知識の習得と、実践活動を通じた日本社会への発信

[演習 C/D] 北欧諸国と日本の比較社会分析のためのデータ解析方法の習得と、研究の実施

活動や研究は、基本的に個人ではなくグループで実施する。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

上記の実践活動の報告や研究成果をゼミ論として扱い、一般社団法人スウェーデン社会研究所の研究講座としての研究発表や、同研究所の所報への記事掲載を最終目標とする。

(3) 評価方法 / Evaluation

各回に設定した経過・成果報告を含む、授業への取り組み状況に基づいて評価する。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

授業で使用する資料・書籍等は授業内で指定する。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

好奇心と積極性をもって授業に取り組む学生を望む。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

応募理由書の内容に基づいて選考する。場合によっては面接を実施する。

6. その他 / Others

演習A/B、演習C/Dとも、3年生・4年生の応募を可とし、複数学年の協働によるメリットを活かしていきたいと考えている。演習C/Dの方がやや応用的ではあるが、入室にあたり北欧諸国に関する基礎知識を求めることはない。演習A/B、演習C/Dのいずれかを今年度に履修した者は、履修していない方の科目を次年度に履修することが可能である。

瀬川 裕司 教授

1. 演習のテーマ / Theme

高度なコメント能力を身につけよう

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとなどに「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B>

毎回の授業において、参加者の提案により、ひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして自身の批評文を用意する。授業時には、参加者は全員の批評文を読んで意見を交換し、分析能力およびコメント力の向上をめざす。希望があれば、演劇や音楽なども考察の対象としてもよい。

<演習 C・D>

原則として、各参加者が中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティストなどのテーマを決めておくことが望ましいが、テーマが決まっていなくても参加できる。毎回の授業では、ひとりの参加者が自身のテーマ、映画作品等に関する発表をおこない（映画作品の場合、重要な部分を全員で視聴する）、そのあと全員で意見を交換する。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

演習 C・D の参加者には、あらかじめ定めていたテーマについて年度末にゼミ論を提出していただき、ゼミ全体での「論集」を発行したいが、提出は任意とする。

(3) 評価方法 / Evaluation

<演習 A・B>：毎回授業時の批評文およびコメントで評価する。

<演習 C・D>：毎回授業時の発表およびコメントで評価する。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

原則としてテキストは指定しない。〈演習 A・B〉では、毎回授業時に参考としてさまざまなタイプの映画批評文のコピーを配布する。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、どんな対象に対しても説得力ある意見を述べられるようになりたいと考える学生が望ましい。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

原則として、希望者は全員受け入れる（入室試験は実施しない）。

6. その他 / Others

田中 牧郎 教授

1. 演習のテーマ

日本語の謎を解く

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<演習 A・B>

身近な日本語に潜む謎を解明していきます。まず**共同研究**です。参加者が議論して、問いやテーマを決めることから始めます。例えば次のようなものです。

- ・ 「普通においしい」が褒め言葉になるのはなぜ？ → 「おいしい」「かわいい」など評価形容詞に付く副詞の用例分析 → 言葉遣いの意識を聞くアンケートの実施 → **意味変化の謎を解き明かす**
- ・ 『万葉集』で「恋」が「孤悲」と書かれているのはなぜ？ → 『万葉集』から面白い漢字表記を抜き出す → 抜き出した漢字と言葉の使用例を古典から集めて分類 → **漢字が日本語化した謎を解き明かす**

春学期と秋学期に1つずつ共同研究を行い、学期末には数千字のリサーチ型レポートにまとめていきます。その共同研究と並行して、研究の基礎となる日本語学の知識や、フィールド調査・コーパス調査等の方法を学んでいきます。

<演習 C・D>

共同研究で身につけた研究方法をもとに、**個人研究**を進めていきます。一般に、研究には、**自分の好きなことをきわめる道と、人々が困っている問題の解決を目指す道**がありますが、日本語研究も同様です。前者の例は、服飾美の評価語彙の変遷を解明する、オノマトペから味覚と触覚の関係を考えるなど、後者の例は、学びやすい文法教材を作る、カタカナ語の言い換えを考えるなど。テーマ設定から研究の完了まで、個人研究を発表し助言し合うことが、クラス全員の個人研究の原動力になります。ゼミ論を書くかどうかは任意です。

<特別演習 A・B>

ゼミ論を執筆する人は4年次に履修してください。日本語学の専門的な方法論を学びながら卒論執筆を行っていきます。大学院生も参加する授業です。

(2) 評価方法

平常点 (60%) ・ レポート (40%)

3. 使用テキスト

使用しませんが、日本語の謎や魅力に導く本(国立国語研究所編『日本語の大疑問』幻冬舎新書、金田一春彦『日本語 上・下』岩波新書、川添愛『世にもあまいなことばの秘密』ちくまプリマー新書など)は、ぜひ読んでください。

4. 応募学生に望むこと

思考と切り離せない身近な日本語を研究することは、人間や社会・文化の本質を考えることにつながります。日本人学生・留学生ともに、身近な問いから考えを深めることが好きな人を歓迎します。「日本語学 A・B」の履修を推奨します。

5. 選抜方法

面接によって選考します。

6. その他

上級生や大学院生との共同研究など、学年を超えた活動も盛んです。

張 佳能 専任講師

1. 演習のテーマ / Theme

文化・芸術諸学を一緒に考えなおす

当節では「言語化」というワードが流行っているようだが、活字によらない文化を研究する際に、最も難しいのはまさしく「言語化」である。

好きな音楽を SNS のアルゴリズムによって集まった同士の間では簡単に語り合えるのに、そのコミュニティから一步出れば途端に「好き」だけでは通用しなくなる。本質的な話をすると、どんなに愛着があっても、あなたの大好きな音楽は空気の振動に過ぎない。それがなぜ良いかを他人に説明するにはどうすればいいかを考えるのも面白いではないか。

本ゼミでは「好き」という感情から出発して、各々の趣味や関心を語り合い、この「言語化」の挑戦を乗り越えて、最終的に活字として結実することを目指す。物事を多方面に捉え、自らの思考と感情を客観視できるようになる訓練は、みなさんの今後の人生においても大いに役立つだろうと確信している。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B>

ゼミの趣旨をよく理解した上で、各自の関心に基づき順番で口頭発表を行う。最初の発表の準備を整える間、教員が適宜指導する。発表を通して問題意識を共有し、資料調査のスキルを身につける。

<演習 C・D>

前年次の経験を踏まえて、各自の関心で論文テーマを定める。問題意識を洗練させ、議論の骨子と章立てをつくる。進捗報告・中間発表を経て、最終的に論文として仕上げる。ゼミ生が自らの関心と向き合う大事な論文として最善な形で完成できるよう、教員が全力でサポートする。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

有り。

(3) 評価方法 / Evaluation

<演習 A・B> 平常点 (50%)、発表 (50%)

<演習 C・D> 平常点 (20%)、発表 (30%)、論文 (50%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

授業中にブックリストを配布し、興味に応じて自由に選択してください。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

侃侃諤諤・切磋琢磨の心持ちで臨んでください。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

面談。

6. その他 / Others

お花見や遠足、資料調査の行事についてはメンバー全員の話し合いで決める。

長尾 進 教授

1. 演習のテーマ / Theme

スポーツと社会

オリンピック・パラリンピックの歴史と現状、およびその将来を考えることがゼミとしての大きなテーマです。また、多くのスポーツにおけるAIの導入、エンハンスド・ゲームズ、スポーツとジェンダー、スポーツ選手の政治的意思表示など、スポーツの在り方そのものが変わりつつあります。そうした時代の変化とスポーツとの関係性について議論を深めることも特徴です。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習A・B>

学期前半は、長尾からその時々々のスポーツをめぐるトピックを提供し、それをもとに討議し、理解を深めます。中盤は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらい、討議をします。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。

<演習C・D>

基本的な進め方はA・Bと同じですが、Dでは最後に4学期間のまとめとしての「演習論文」を提出してもらい、発表してもらいます。

<特別演習A・B>

3・4年が受講対象ですが、必須ではありません。また、演習A・B・C・Dとは内容的に異なります（武士道論講読等がテーマ）が、ゼミ所属生はもちろんそれ以外の学生さんも関心のある人なら誰でも受講可能です。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

上記演習D参照。

(3) 評価方法 / Evaluation

<演習 A・B・C>

平常点（討議への関心度、意欲）40%、プレゼン（資料収集・取材意欲を含む）30%、期末レポート30%

<演習 D>

平常点（討議への関心度、意欲）30%、中間プレゼン（資料収集・取材意欲を含む）20%、演習論文30%、論文発表会プレゼン20%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

演習A・B・C・Dはとくに指定しません。参考文献は都度紹介します。（特別演習A・Bのテキストについては同授業のシラバス参照）

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

プレゼンにしてもレポートにしても、一次資料（未発表の資・史料の発掘、インタビュー、アンケート等）が大きな説得力をもちますし、評価に反映します。

5. 選考方法 / Screening

関心のあるスポーツ関連のテーマと、そのテーマを選んだ理由、および研究計画を記述する欄を含む「エントリーシート」を書いて提出してもらいます。基本的には、そのエントリーシートと面接（Zoom）をもとに選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

自分の関心のあるスポーツだけでなく、日ごろからスポーツに関するニュースや記事に目を通すようにしておいてください。

7. その他 / Others

冬季または春季休暇中にゼミ旅行合宿（日帰り、もしくは1泊2日程度）を行います。研修先は皆さんと話し合って選定します。

萩原 健 教授 Prof. Ken HAGIWARA

1. 演習のテーマ / Theme

ドキュメンタリー演劇の作品制作 Creation of Documentary Theatre

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

ドキュメンタリー演劇とは、実際に起きた／起きている出来事を素材にした演劇のことで、いろいろな制作方法があります。それらを学んだのち、学生のみなさん——きっとさまざまなルーツや背景があることでしょう——ご自身の経験に基づく内容のドキュメンタリー演劇を制作します。

〈2026 年度、2027 年度共通〉

4～7 月：関連文献講読、討論、制作（調査・取材および脚本制作）

9～11 月：稽古ほか準備

11 月～12 月：公演（GJS-Day 等）

12～1 月：活動内容の文書化（下記「ゼミ論の有無」参照）

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

共同で活動内容を文書化し、国際日本学部学生論集等へ投稿することを予定。

(3) 評価方法 / Evaluation ※〈演習 A・B〉〈演習 C・D〉共通

文献講読時の発表(25%)、調査・取材・脚本制作(25%)、稽古以降の制作活動(50%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

松井かおり／田室寿見子『ドキュメンタリー演劇の挑戦』(2017)

Meerzon, Y. / Wilmer, S.E.: *The Palgrave Handbook of Theatre and Migration* (2023)

その他、授業内で適宜案内します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

表現活動全般、およびダイバーシティ(多様性)や異文化間交流への関心

5. 選考方法 / Screening

個別ガイダンスに出席した上で、一次選抜期間中に作文を提出してください(提出先: hagi@meiji.ac.jp)。テーマは「日常と演劇」、分量は日本語なら 1000 字前後、英語なら 500 語前後とします。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

特にありません。

7. その他 / Others

特にありません。

萩原 健 教授 Prof. Ken HAGIWARA

1. 演習のテーマ / Theme

ドキュメンタリー演劇の作品制作 **Creation of Documentary Theatre**

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

Documentary theatre is a theatre that uses actual events as its source material, and there are many different ways to produce it. After reading related materials, students - who surely have various roots and backgrounds - will create a documentary theatre based on their own experiences.

Schedule (Both academic years 2026 and 2027)

Apr-Jul: Reading of related literature, discussion, creation (research, interview, and script writing)

Sept-Nov: Rehearsal and other preparations

Nov-Dec: Public performance(s) (assuming at the GJS-Day, etc.)

Dec-Jan: Documentation of the activities (see below "Thesis")

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

It is planned to jointly document the activities and submit them to publications such as the *School of Global Japanese Studies Student Journal*.

(3) 評価方法 / Evaluation (common to Seminar A/B and C/D)

Presentations during literature readings: 25%

Research, interviews, and scriptwriting: 25%

Production activities from rehearsals: 50%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

松井かおり／田室寿見子『ドキュメンタリー演劇の挑戦』（2017）

Meerzon, Y. /Wilmer, S.E.: *The Palgrave Handbook of Theatre and Migration* (2023)

Other literature will be provided as needed.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Students interested in creative expression in all its forms, as well as diversity and intercultural exchange, are welcomed.

5. 選考方法 / Screening

After attending the individual guidance session, please submit your essay during the first selection period (Submission address: hagi@meiji.ac.jp). The theme is "Daily Life and Theater." The length should be approximately 500 words in English or approximately 1000 characters in Japanese.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

None.

7. その他 / Others

None.

馬場 小百合 准教授

1. 演習のテーマ / Theme

日本の古典文学を精読します。

馬場の専門分野は『古事記』や『万葉集』などの上代文学ですが、ゼミにおいて学生が研究の対象とする作品はそれらに限定せず、学生と相談の上で作品やテーマを決定します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<1年目>

古典文学を研究する上での基本的な辞書・注釈書等の扱い方について学び、自ら新たな問題を立てて調査し、結果を論理的に報告する力を身につけます。

重要な先行研究について批判的に検討し、参加者全員でディスカッションを行います。先行研究を精読し、批判することを通じて自らの問題意識を明確にします。

<2年目>

各自が研究対象とする文学作品について、問いを設定して調査・発表を行い、参加者全員でディスカッションを行います。

<特別演習 A・B>

これまでの調査をゼミ論としてまとめます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

希望者のみ。

執筆を希望する人は、「特別演習 A・B」において論文指導を受けてください。

(3) 評価方法 / Evaluation

<演習 A・B> 授業参加度 50%、発表 50%

<演習 C・D> 授業参加度 50%、発表 50%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

発表者が選んだ論文やテキストを使用します。

その他、読むべき資料は適宜指示します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

ことばの一つ一つにこだわり、様々な観点からゆたかに古典文学を読みたい人を歓迎します。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

面接を行い、興味関心を確認します。

6. その他 / Others



演習のテーマ / Theme

国際教育学・異文化間教育学：移動・実践・批判的思考から学ぶ

International and Intercultural Education — Learning through Mobility, Practice, and Critical Thinking

国内外の地域社会・オンライン環境を用い、国際性・多様性・教育課題を批判的に理解する力を育てる。

留学経験の有無は問わない。

Students engage with local/global communities and online environments to critically examine internationality, diversity, and education. No study-abroad experience required.

授業内容 / About the Course

授業の進め方 / How the Course is Conducted

<3年次 / 3rd Year>

個人研究とゼミ共同活動の両輪で学ぶ。

■ 個人 / Individual

- テーマ選択 / Topic selection
- 文献調査 / Literature review
- 方法選択（面接・調査・観察） / Methods (interview, survey, observation)
- 分析 / Data analysis
- アカデミックペーパー作成 / Academic paper writing

■ ゼミ全体 / Seminar-wide

- 国内外フィールドワーク / Domestic & international fieldwork
- 国際教育テーマ探究 / Exploration of key IE/IC topics
- 学生主体の活動決定 / Student-led planning
- 積極参加必須 / Active participation required

ゼミ論の有無 / Thesis

卒業論文は必須ではないが、アカデミックペーパー提出は必須。大学院進学希望者には個別指導を行う。

No formal thesis required, but an academic research paper is mandatory. Individual guidance provided for students planning graduate study.

使用テキスト / Textbook(s)

授業時に配布。

Materials will be provided in class.

応募学生に望むこと / Expected in Applicants

- 多様性への開かれた姿勢 / Openness to diversity
- 経験を学術的に振り返る姿勢 / Academic reflection
- 観察・調査・討論への積極性 / Active participation in research & discussion
- 協働運営の意欲 / Willingness to collaborate
- 国際性・多様性・教育への関心 / Interest in IE/IC and education

入室前に学習してほしいこと / Preparation Before Joining

テーマ案の検討、関連文献の事前読解、ゼミ活動案の準備

Consider themes, read related literature, prepare ideas for seminar activities

<4年次 / 4th Year>

研究を深化し、論文完成+国際学生フォーラム運営実施。

■ 個人 / Individual

- テーマ深化 / Refined research theme
- 文献レビュー拡張 / Expanded literature review
- 本格分析 / Full analysis
- ペーパー完成 / Final academic paper
- 最終発表 / Final presentation

■ ゼミ全体 / Seminar-wide

- オンライン国際学生フォーラム開催 / Hosting Online International Student Forum
- 海外学生発表者の募集・調整 / Recruiting overseas presenters
- 運営（司会・広報・調整） / Moderation, publicity, coordination
- 学生自身も発表 / Students present research

評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year>

- 授業参加 Participation …… 30%
- フィールドノート Fieldnotes …… 30%
- 小規模調査 Small-scale research …… 20%
- レポート&発表 Report & presentation …… 20%

<4年次 / 4th Year>

- 計画・先行研究 Planning & Literature Review …… 25%
- 分析・草稿 Analysis & Draft …… 25%
- 最終ペーパー Final Paper …… 30%
- 国際学生フォーラム Forum Contribution …… 10%
- ゼミ貢献 Seminar Contribution …… 10%

選考方法 / Screening

志望理由書+面接

Statement of Purpose + Interview

なお、追加説明は個別ガイダンスにて行いますので、必ず個別ガイダンスにお越しください。

Additional explanations will be provided during individual guidance sessions. Attendance at an individual guidance session is mandatory.

その他 / Others

日本語・英語を用いた複言語ゼミです。両言語での基本的なコミュニケーション力が必要です。海外大学との協働学習を含みます。

This is a multilingual seminar conducted in both Japanese and English. Basic communication skills in both languages are required. The course includes collaborative learning projects with overseas universities.

平井 達也 教授

1. 演習のテーマ / Theme

このゼミのキーワードは、「多文化ファシリテーション」と「インクルーシブ・リーダーシップ(Inclusive Leadership)」です。初めてこれらの言葉を聞く人もいると思いますが、これらのキーワードが意味するのは、「さまざまな背景や価値観、個性をもった人たちが、それぞれ自分らしく力を発揮し、お互いを元気にできるような支援」です。本ゼミでは、ゼミ生がそのような支援者(ファシリテーター)になれるような学びの場を、皆さんと一緒に創っていきます。文献講読によるディスカッションも行いますが、知識の習得以上に、ファシリテーターとしての技能や態度、在り方の育成にも力を入れる予定です。そのため、ゼミではグループワークや相互フィードバック、ワークショップの発表やファシリテーションなどの体験学習を多く取り入れます。これらの学びを通して、皆さんが「さまざまな人が安心して自分の持ち味を発揮し合える社会」の実現に向けて行動を起こせる“Change Agent”に成長できることを目指します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3 年次:演習 A・B>

3 年前期では、主に 4 つのテーマ、すなわち、自分らしく生きる(ライフプランニング)、幸せに生きる(Well-being)、共に生きる(Diversity & Inclusion)、生きることを支援する(リーダーシップ)に関するワークショップを体験してもらいながら、文献講読やディスカッションを通して、ワークショップや対話によるグループづくり、ファシリテーションについて体験的に学びます。前期の終わりまでには、関心の近いゼミ生同士でグループを組み、自分たちで作るワークショップのテーマを決めます。8 月には集中ゼミ合宿を行い、それぞれのグループで選んだテーマに関する 90 分程度のワークショップ・セッションを作成します。なお、この合宿では、他大学(APU[立命館アジア太平洋大学]および東北大学)の学生リーダーとも交流し、学び合う予定です。

3 年生後期では、引き続きワークショップの作り方を学ぶとともに、グループ・ファシリテーションの技法についても体験学習を通して学びます。秋学期中には、可能であれば国際日本学部の他のゼミと合同で合宿を行い、交流を深めつつ、お互いにワークショップを実施してフィードバックを交換し、その質を高めます。また、例年 11 月に行

われる「中野ダイバーシティフェスタ」を地域の方々と一緒に創り上げながら、自分たちのワークショップ・セッションを一般の方々に向けて実施する予定です。

<4年次:演習 C・D>

4年生前期では、新たに加わる3年生のゼミ生を対象に、これまで作ってきたワークショップを実施し、お互いの学びを活性化させます。加えて、これまで学んできたファシリテーションにさらに磨きをかけるために、「異文化間教育学」の授業にファシリテーターとして入り、数名の履修生から成る小グループの学びを支援します。ゼミでは、そのファシリテーションについて実践的に振り返りながら、スキルを高めていきます。

4年生後期では、高校生向けのグローバルリーダー合宿(12月実施予定)を企画・運営し、これまで作ってきたセッションと新たに作成するセッションを組み合わせ、2日間の合宿を実施します。その際には、日本語と英語を駆使しながら、若きグローバルリーダーの育成を支援します。最後に、これまでの総括として、ワークショップの内容や実施方法、ファシリテーションのノウハウ、自分たちの学びなどを冊子としてまとめます。

以上が、ゼミ開始前に想定している活動内容です。ただし、実際には集まったゼミ生と一緒に、どのようなゼミ活動にしていきたいかを話し合いながら、柔軟に進めていければと考えています。なお、演習 A・B は3年生を主な対象としますが、4年生も応募可能です(ただし、選抜となった場合は3年生を優先します)。

<使用言語について>

日本語と英語を使用します。ゼミの初期段階では日本語を中心に進め、徐々に英語による文献講読やディスカッションを増やしていきます。4年次には、ゼミの時間の半分程度を英語で実施できることを目指します。

(2)ゼミ論の有無 / Thesis

いわゆる卒業論文を必須とはしませんが、2年間の成果報告書として冊子などにまとめることは必要です。大学院進学などを考えていて卒業論文を書きたい学生には、適宜指導を行います。

(3)評価方法 / Evaluation

<演習 A・B>

議論やグループワークへの参加・貢献度(30%)、作成したワークショップの質やファシリテーションの技能(30%)、定期発表やレポートの質(30%)、自己評価(10%)

<演習 C・D>

議論やグループワークへの参加・貢献度(30%)、作成したワークショップの質やファシリテーションの技能(30%)、定期発表やレポート、成果報告書の質(30%)、自己評価(10%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

授業内で皆さんと相談しながら、適宜選定していきます。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

主体的に学び、行動しようとする学生、お互いの違いや個性に関心を持ち、理解しようとする学生、そして他者の支援や成長に関心のある学生に、特にフィットするゼミだと考えています。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

ゼミへの参加を希望する学生は、4月3日までに Oh-o! Meiji のアンケートからエントリーしてください。希望者が多い場合は、4月4日から4月6日の期間に Zoom で面接を行います。なお、この演習に関して質問がある場合は、hirait@meiji.ac.jp までメールでお問い合わせください。

6. その他 / Others

私は、前任校である APU(立命館アジア太平洋大学)で13年間グローバル教育に携わった後、2024年4月に明治大学国際日本学部へ赴任しました。2026年度は、2回目のゼミ担当となります。これまで関心をもって学んできた分野としては、カウンセリング心理学、キャリアカウンセリング、グループアプローチ、異文化間教育、多文化共修、ポジティブ心理学、リーダーシップ教育などがあります。

これまでの私自身の学びや体験も生かしながら、皆さんと一緒に、楽しく思い出に残るゼミを作っていければと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

廣森 友人 教授

1. 演習のテーマ / Theme

外国語学習の科学：理論・研究・実践

(The Science of Foreign Language Learning: Theory, Research, and Practice)

本演習の目的は、「第二言語習得研究」(Second Language Acquisition [SLA] Research) に基づいて、効果的な外国語(英語)学習法の理論を学び、自分たちで調査・実験を含めた研究を行い、得られた知見を自ら実践できるようになることです。外国語を学ぶやる気とスキル (Will and Skill) を高める方法を身につけることで、学習成果の最大化を目指しましょう。



2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B>

演習を進める上での基礎となる知識・技能を強化します。第二言語習得に関する英語文献の読解や各種プレゼンテーションを行ったり、ゼミ全体で興味・関心のあるトピックについて研究プロジェクトを行います。

<演習 C・D>

演習 A・B で学んだことを踏まえ、第二言語習得に関する英語文献の読解や各種プレゼンテーションを行ったり、グループ単位 (希望によっては個人単位) で興味・関心のあるトピックについて研究を行います。授業では、定期的に各グループ(各自)の進捗状況を報告しあい、他のゼミ生や教員、院生からのフィードバックを受けます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

希望者のみ

(3) 評価方法 / Evaluation

出席・授業への参加状況、プレゼンテーション、レポートを総合的に考慮して評価します。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

- ・以下を事前に確認し、自分の興味・関心と合致するかを見極めた上で応募してください。

ゼミの紹介動画

ゼミのインスタグラム

研究室のウェブサイト



- ・私の専門はやる気 (motivation) です。やる気は伝染します。みんなで「やる気が伝染するゼミ」を作っていきましょう。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

志望動機等を確認するための面接を行います。詳細は、個別ガイダンスの際に説明します。

6. その他 / Others

- ・学部科目「心理と言語 A・B」は演習内容と関連していますので、事前に履修しておくか、演習と同時に履修してください。
- ・夏期休業中にはゼミ合宿を行います。その他、定期的に各種行事・イベント（例: BBQ, ゼミスポーツ大会, ゼミ研究発表会, OB・OG・現役生合同交流会）を行います。

藤本 由香里 教授

1. 演習のテーマ

サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会

日本のポップカルチャーは今、国内外で未曾有の利益をあげる基幹産業になりつつあります。それは急速に進むデジタル化の中でどう変わりつつあるのか？ この演習では、マンガ・アニメ・ゲームなどのポップカルチャーを題材に、表現のあり方と社会意識や文化との関係、そして未来を探っていきます。「文化」だけでなく、「市場」を視野に入れ、社会の意識を検討するゼミです。とくに「ジェンダーと表現」などについて関連文献を読み、ディスカッションすることでそれぞれのテーマについて考えを深めていきます。その中で4年次の卒論のテーマをそれぞれが見つけ出し、調査→発表→ディスカッション→フィードバックによって、自分なりに何かが「見えてくる」ときの喜びに出会ってみたいと思います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<演習 A・B>

ここ数年、ポップカルチャーの市場はデジタル化の促進で激変しています。また「推し」という言葉に象徴されるようにアイドルに注目が集まっています。このゼミでは、ポップカルチャーの基礎的な知識を共有すると共に、いったい今、何が起きつつあるのか、未来のポップカルチャーはどのような形に変わっていくのかを積極的に考えていきたいと思っています。ディスカッションは院生も一緒に行うことがあり、春学期は特別演習と続けて、2コマ4単位となります。

後期は具体的に「仕事」と国際性について、マンガ・アニメ・小説・ドラマなどのコンテンツ上での表現を含めて発表してもらい、就活も見据えて、<仕事>について考えます。

<演習 C・D>

演習 CD においては卒業論文の準備、執筆がメインになります。卒論の仕上げの時期である秋学期は、特別演習も続けて2コマ4単位となります。なお、3年春学期にCを履修してテーマと研究計画を決め、1年かけて少しずつ研究を進め、4年秋学期に論文を提出することも可能です。

(2) ゼミ論の有無

有。2万字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、コミケ等で頒布します。卒論発表会も毎年行っていますが、いずれも非常に水準が高いと好評です。

(3) 評価方法

AB：発表（50%）、ディスカッションへの貢献度（40%）、その他（10%）。

CD：発表（70%）、各発表・討議への貢献度（20%）、その他（10%）

3. 使用テキスト

井上伸一郎『メディアミックスの悪魔』、黄仙恵『韓国コンテンツのグローバル戦略』、レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』、飯田一史『この時代に本を売るにはどうすればいいのか』、足立加勇『日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象』、三宅陽一郎『魔法少女とロボット』、四方田犬彦『かわいい論』、須川亜紀子『2・5次元文化論』、水上文他『はじめての百合スタディーズ』、岡本千代『ケアの倫理』、多賀太『男らしさの社会学』、伊藤詩織『Black Box Diaries』

4. 応募学生に望むこと

ゼミは皆さんが作るものです。ディスカッション等、ぜひ積極的な参加を希望します。

5. 選考方法

志望動機書と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明します。

6 ゼミ入室までに学んでおいてほしいこと

『漫画文化論』AB『ジェンダーと表象』ABは受講することが望ましい。

7 その他

2泊3日程度でゼミ合宿を行います。3年次は京都国際マンガミュージアムのある関西方面が多いですが、秋田・新潟に行ったこともあり、4年は仙台・箱根・上諏訪・金沢…など多彩です。

眞嶋 亜有 Ayu Majima 准教授

1. 演習テーマ 学際的日本研究～ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる～

「国際日本学部って一体何？」

「グローバル人材」、「国際日本」とは一体何でしょうか。学問の玉手箱のような国際日本学部に入学者には、合格した直後から「国際日本学部って何？」と周囲から聞かれるお決まりの質問への「正解答」探しの旅が始まる方もいるかもしれません。1年は必修に追われ、2年は様々な領域履修をしているうちにもう3年生、あっという間に就活先で「国際日本学部で何を学びましたか？」と聞かれる時期に入ります。自分の学びたいように履修ができる魅力的な学部でありながら、気づくと、果たして自分の専門性とは何なのか、これまで自分は何を学んできたのか、と「国日不安」を抱く方、さらに、国際日本学部って、「国際なの？日本なの？どっち?!」とすら自問する方もおられるかもしれません。

「きのこの山」が語るもの

私は新入生には「国際日本」は「きのこの山」だとお伝えしています。チョコとビスケットで出来ているきのこの山が「自分はチョコなのか、ビスケットなのか、どっちなのか」と自問するとしたら皆さんはどう考えますか。「きのこの山」から見ると、就活のグループ面接で、経済学部出身という同期が、まるで「明治のチョコレート」のように、「いいなあ、あの人はどこから見ても正真正銘のチョコレートだ」と映るかもしれません。また、国際教養学部出身と耳にするとあたかも「マリーのビスケット」であるかの如く、「いいなあ、あの人は誰がみても正真正銘のビスケットだ」と思うかもしれません。

しかし「きのこの山」は、「チョコとビスケット」があってこそ「きのこの山」なのです。つまり、日本を知ることは世界を知ることであり、その両者は決して分かたることができません。それがグローバル社会の本質であり、21世紀を生きる私たちには、そのグローバル社会を生き抜くための知性と教養が求められていると言えるでしょう。

だからこそ「ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる」

そこで学際的日本研究を専門とする眞嶋ゼミでは、「ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる」を基本コンセプトに、グローバル社会を生き抜くための知性と教養としての、「世界のなかの日本」を捉える多角的視座の構築を、具体的な方向性や深め方は其々の関心や問題意識等に基づき協議・検討・調整しながらも、以下の三本柱を指針に目指しています。

- ① 多角的視点から見えてくる日本と世界を、ジャパン・オリジナルの如く、自分・オリジナルな視点から考察する試みを持っています。そもそも「日本研究」とは学際性を持って成立するジャンルですが、ここでは主に比較文化の手法に基づき、歴史社会学・文化人類学・ジェンダーといった領域を複合的に横断するアプローチを取っています。グローバルな視座から「日本とは何か」を問う具体的なトピックは、私たちの日常生活の至るところに溢れており、近現代日本とグローバリズムの諸問題、家族や人間関係、ジェンダーやアイデンティティ、思考行動パターン、生活文化、心性、日本文化の世界発信や異文化受容のビジネス・モデル、また個性や多様性をめぐる諸相など、身近な切り口から、比較考察を通じて多角的に分析します。比較対象としては、近現代日本にとって最も重要な他者であり続けた米国との比較考察が基軸としながらも、米国に限らず様々な国や文化圏との多角的比較ができるような視座の構築を目指します。個と多様性が益々重視されていく現代、また超少子高齢化を迎え様々な挑戦が日本に求められているなか、国籍・人種・性差を問わず互いの感性を尊重しながら、私達が日本や世界に貢献しうる可能性とは何か、そしてその豊かさとは如何なるものかを共に学び、考えていきましょう。

- ② **自己発信力と対話力:プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の強化**を旨とします。ガイダンス動画等の説明にもありますように、これまで中野キャンパスホール、駿河台キャンパス・グローバルホール等、希望に応じて様々な会場で発表・議論の機会を設けてきました。プレゼン能力とコミュニケーション能力は今後のキャリアに有益なスキルだけではなく、日頃の対話力をも向上することにつながります。自己発信力と対話力を磨くことで、自己理解を深め、同時に他者理解をも深めることができます。なぜなら、日本を知ること世界を知ること、世界を知ること日本を知ることであるように、自己理解は他者理解であり、その両者も分かちあうことはできないからです。
- ③ **国内外で活躍する多彩なゲストとの交流**:本ゼミではこれまで様々なゲストをお招きしてきました。様々な分野で活躍されるゲストから生き方やキャリアのお話を伺うことは、生き方やキャリアの多様性を知ることにつながるだけでなく、多角的視点から「自分とは何か」「生きるとは何か」「幸せとは何か」「豊かさとは何か」を学ぶ機会にもなります。また過去には他大合同ゼミといった他流試合も開催しており、今後も希望があれば可能な範囲で計画・検討しますが、先方の都合等もありますので、予定等に関する程度柔軟性が求められることはご承知おき下さい。また、ゼミ活動にかかる交通費や諸経費は自己負担となります。尚、①②③の具体的事例としては文化庁とのコラボ「和食と WASHOKU の世界発信」プロジェクト (NHK World 等でもご活躍されている米国人建築家インタビュー@国日 HP)なども行いました。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次> 関連文献講読やフィールド・トリップ、交流イベント、また各自の関心に基づく発表と議論を重ねることで、多角的な思考能力とプレゼン能力、対話力を鍛えます。

<4年次> 上記の学びと並行して卒業後にも活かしていける知性と教養を養います。

(2) **ゼミ論の有無** 希望者のみですが、研究発表と議論は基本的に全員が行います。卒論を執筆しない学生は学期末課題や、同等の卒業制作等を行う予定です(詳細は相談)

(3) 評価方法

<3年次> 出席(35%)、議論含むゼミ貢献度(35%)、発表と課題(30%)

<4年次> 出席(35%就活に応じ相談)、議論含むゼミ貢献度(35%)、同上(30%)

3. **使用テキスト** シラバスやゼミ内で必要に応じてお伝え・共有していきます。

4. **応募学生に望むこと**: 私たちは様々な人々との交流や対話を通じて、自分と社会と世界を知る機会を得ています。本ゼミでは、希望や状況に基づき、学外の方々との交流企画も検討する場合がありますので、日頃から知的好奇心を持ち、人の意見とその多様性を尊重したうえで、自分の意見を共有し、主体性・礼節・協調性をもって共に学び合う意志のある学生の皆さんと活動できることを希望しております。

5. **選考方法** 作文等と面談と成績/: 入室希望者は、ガイダンス動画(ゼミ・インスタを確認できる場合はゼミ生作成動画等含)を閲覧の上で、個別ガイダンスには必ず出席して下さい。※作文等は面接日前の提出となりますので早めに取り掛かることをお勧め致します。

6. **演習入室までに学習してほしいこと** 日々の生活で何気なく抱く問いや関心は将来の重要な道標になるので、その感性を大切に日頃から多くの良書を読んで下さい。また下記リンクにあるエッセイは必ず読んでおいてください(大学ホームページ内の教員ページ内)。
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~majima/170315ryoomoi.pdf>

7. **その他** 教員の担当科目を事前に履修しておくとう学際的日本研究の断片が理解しやすいですが、入室前までの履修が入室条件ではありません。詳細はガイダンス等で説明致します。質問等あれば遠慮なくメール(majima@meiji.ac.jp)をして下さい。

溝辺 泰雄 ゼミナール

1. 演習のテーマ / Theme

「Twende——世界を歩き、感じ、かたちにするゼミ」

～この演習は、「世界を理解する」とはどういうことかを、知識の習得だけでなく、**観察・記述・表現という実践を通して考えるゼミ**です。ゼミでは、身近な都市空間や世界中の旅先、日常のなかにある音楽やカフェといった場をフィールドとして、歩き、見て、聞き、考え、書くというプロセスを重ねていきます。その過程で得られた経験や気づきを、他者に伝える形へと編集し、最終的には学生自身の手による雑誌『Twende (スワヒリ語で Let's go の意)』として刊行します。これらを通じて、ゼミ生のみなさんには抽象的な「世界」ではなく、具体的な場所と感覚を手がかりに社会を理解する視点を養っていただきたいと考えています。

2. 演習内容 / About the course

この演習の履修を検討される前にご確認ください

- この演習は、**2年生以上の方であればなたでも履修できます(4年生からの参加も可能です)**。
- この演習は【**春学期(a/c)+特別演習 A と秋学期(b/d)+特別演習 B=合計 12 単位**】を**1年間で履修**していただきます(今年度の秋学期に留学される方は事前にご相談ください/春学期に留学される方は次年度以降に履修して下さい)
- 2年生の方は演習 a~d は履修可能ですが、特別演習 A/B には登録できないため、事前にご相談ください
- 演習 a/c(春)b/d(秋)は【**月曜日の3時間目から5時間目(5限は特別演習)**】に連続して実施します
- 春学期(6月中旬～下旬の週末)に学外実習として**1泊2日の予定で日本 or 東アジアのどこかを訪問**します(実施場所はメンバーの投票で決定します。往復の交通費および宿泊費等は自己負担となります)
- 特別演習 B は【**1月上旬**】に集中形式(5日間程度)で実施します。期間中に、**関東近郊で2泊3日の雑誌編集合宿を実施**する可能性があります(往復の交通費および宿泊費等は自己負担となります)
- 春学期におこなう ZINE 制作と秋学期に実施する雑誌制作に際しては、Adobe InDesign や Illustrator、Photoshop などを利用するため、**Adobe のアプリケーションが使えるスペックのノートパソコン(タブレットは不可)を用意し、ゼミの際に持参していただく必要があります**
- さらに、Adobe のコンプリートプラン学生版への加入料金(月 2,500 円前後×最長で 10 ヶ月分程度)の費用も自己負担となります
- また、演習活動の制作物となる ZINE や雑誌の出版費用(それぞれ 1 人 1000 円～3000 円程度)もご負担いただくこととなります

【**春学期(演習 a/c)**】春学期は、旅や移動、音楽、カフェ文化といった身近な文化実践を手がかりに、観察・記述・共有という実践を通して、世界や社会の捉え方を身につけていきます。春学期の演習(a/c)では、体験や記録の言語化、議論、発表を中心に行い、特別演習 A では、展示や書店、ZINE などの事例に触れながら、編集や表現の基礎となる視点や手触りを身につけていきます。これらの活動を通して、秋学期に行う雑誌『Twende』の編集・刊行に向けた準備を進めていきます。具体的な活動内容は以下のとおりです*(以下の日程は履修者数や校務などで若干の変更の可能性があります)：

- [#1] 4月13日(月) ガイダンスと次回料理会の準備
- [#2] 4月20日(月) 料理会：調理を通して世界を知る(会場費+材料費 2000 円程度)
- [#3] 5月11日(月) 音楽①：各自の音楽経験を共有する
- [#4] 5月18日(月) 音楽②：音楽をフィールドとして読む
- [#5] 5月25日(月) 音楽③：音楽はどこで、どのように聴かれているのか
- [#6] 6月01日(月) 旅を考える①：移動経験をどう語るか(旅の経験を共有する)
- [#7] 6月08日(月) 旅を考える②：世界の旅人たちの記録(旅行記)を読む
- [#8-10] 6月13日(土)～15日(月) 旅に出る：学外実習(1泊2日 or 2泊3日)
- [#11] 6月29日(月) 旅を考える③：旅の経験を文章と映像で綴る
- [#12] 7月06日(月) コーヒー①：焙煎ワーク(会場費+材料費 2000 円程度)
- [#13] 7月13日(月) コーヒー②：カフェ巡り(フィールドワーク)
- [#14] 7月20日(月) コーヒー③：カフェ巡りの体験を共有する(プレゼンテーション)

【**(春学期)特別演習 A (主に月曜 5限実施)**】特別演習 A では、演習(a/c)で行う観察・記述・共有の実践と連動しながら、表現や編集の基礎となる視点と手触りを身につけていきます。春学期前半は、レイアウトや色、視線の流れといったデザインの基本的な考え方を学び、後半では Adobe Illustrator や InDesign を用いて、実際に誌面をつくる体験を重ねます。また、書店や ZINE 書店、アートの見学を通して、小さな出版物がどのように構成され、読まれているのかを各自の視点で観察します。最終的には、自身の関心や記録をもとに ZINE を制作し、秋学期の雑誌『Twende』編集へとつながる基礎的な経験を積むことを目的とします。

*フェーズ① つくる前に知る～デザインの基礎と思考のインプット

[A#1] 5月11日(月) 5限 デザインの基礎①：レイアウト・色・視線の流れを知る—なぜ「読みやすい／読みにくい」が生まれるのか

*フェーズ② Adobe に触れる～ツールに慣れ、編集感覚を身体化する

[A#2] 5月18日(月) 5限 Illustrator①：図形を描いてみる

- [A#3] 5月25日(月)5限 Illustrator②:文字を加工する
- [A#4] 6月01日(月)5限 Illustrator③:キャラクターを作る
- [A#5] 6月29日(月)5限 InDesign①:ページを組む/ページ感覚を掴む
- [A#6] 7月06日(月)5限 InDesign②:小さな誌面を作ってみる
- [A#7](6月中旬~7月上旬・各自)ZINE 書店/アートスペース見学—サイズ・紙・情報量・構成を観察する
- *フェーズ③ ZINEを作る
- [A#8] 7月13日(月)5限 ZINE 制作①:テーマ決め・素材持ち寄り
- [A#9] 7月18日(土) 午後(※任意参加可) ZINE 制作②:ラフ制作・編集方針の確認
- [A#10] 7月19日(日) 午後 ZINE 制作③:組版・ページ構成(*参加できない場合は個別作業+提出)
- [A#11] 7月20日(月)5限 ZINE 制作④:修正・整える
- [A#12] 7月27日(月)5限(最終回) ZINE 制作⑤:完成・共有—小さな発表会

【秋学期(演習 b/d)+特別演習 B】 秋学期は、春学期に行った観察・記述・共有の実践や、夏休み期間中の各自の経験をもとに、雑誌『Twende』の企画・編集・刊行に集中的に取り組みます。旅や移動、音楽、カフェといった身近な文化実践を素材として、何を記事として取り上げ、何を削り、どのような構成で読者に届けるのかを、編集会議を通して決定していきます。秋学期は、書くことだけでなく、判断し、責任をもって「出す」ことそのものが学びとなる学期です。具体的な活動内容は以下のとおりです:

- *フェーズ I | 雑誌を「決める」
- [#15] 9月28日(月) 編集会議①:春と夏のログを持ち寄り—何が「雑誌になりうるか」
- [#16] 10月05日(月) 編集会議②:雑誌テーマを決める—「決定」を経験する
- *フェーズ II | 書く・削る・組み替える
- [#17] 10月12日(月) 編集会議③:企画案を出す・捨てる—書くもの/書かないもの
- [#18] 10月19日(月) 執筆ワーク①:とにかく書く—上手さより量
- [#19] 10月26日(月) 編集会議④:原稿を読む・削る—感情と文章を切り離す
- [#20] 11月09日(月) 執筆ワーク②:再構成と再執筆—見出し・リードを考える
- [#21] 11月16日(月) 編集会議⑤:全体構成を組み替える—雑誌としての流れ
- *フェーズ III | 雑誌として成立させる
- [#22] 11月30日(月) 編集会議⑥:写真・図版・キャプション—何を載せ、何を載せないか
- [#23] 12月07日(月) 編集会議⑦:全体通し—読者の視点で読む
- [#24] 12月14日(月) 最終調整①:原稿・表記・クレジット
- [#25] 12月21日(月) 最終調整②:印刷仕様・入稿準備
- *フェーズ IV | 出版へ向けて
- [特別演習 B_#1] 1月5日(火) 集中作業日@中野キャンパス
- [特別演習 B_#2] 1月6日(水) 編集合宿@高尾山
- [特別演習 B_#3] 1月7日(木) 編集合宿@高尾山
- [特別演習 B_#4] 1月8日(金) 編集合宿@高尾山
- [特別演習 B_#5] 1月9日(土) 集中作業日@中野キャンパス
- [#26] 1月11日(月) 入稿最終確認
- [#27] 1月18日(月) 入稿・提出
- [#28] 2月03日(水) ゼミ最終回・完成雑誌受け取り

3. 応募学生に望むこと

この演習では、国内外を問わず旅や移動に関心を持ち、音楽やカフェといった身近な文化実践を手がかりに、現代世界や社会について自分なりに考え、言葉にしようとする姿勢を重視します。必ずしもこれまでに多くの旅の経験がある必要はありませんが、目の前の出来事や場所、人との出会いに対して「なぜだろう」と立ち止まり、それを観察し、記録し、他者に伝えようとする意欲のある方を歓迎します。また、この演習では文章だけでなく、写真や誌面構成などの視覚的表現にも取り組みます。アートやデザインに関心があり、表現のかたちそのものを考えることに楽しさを感じられる方の参加を期待しています。

4. 履修者選抜方法

履修申請書と面接の内容に基づき判断します(原則として冒頭の条件に合う方は皆さんに参加いただく予定です)。履修申請書にはご自身の自己紹介と履修を希望される理由、演習での活動計画などを、書式自由でお書きいただきます。提出先や提出期限などの詳細はガイダンス動画でお伝えします。

5. その他

こちらのサイトからこの演習のこれまでの様子を知ることができますので、ぜひご覧ください:

<https://linktr.ee/africakenkyukai>



美濃部 仁 教授

1. 演習のテーマ

哲学。(このゼミは、参加者がそれぞれ自分の関心にしたい、あるいは自分の関心をさぐりつつ、自分を取りまく世界や自分自身の中に問題とすべきことを見出し、それをその根源にまで立ち戻って明らかにする——それが哲学ということですが——ということを中心におこなわれます。その準備として全員で一冊の本を読む、というようなこともしています。どのような問題にどのように取り組むかは各人の自由に任せられています。他の参加者との意見交換の中で、自分の考えを明確化してゆくことを目標とします。)

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

この授業は、参加者の哲学的関心に沿う形で進めます。ですから、予め「進め方」を細かく決めてはいませんが、ほぼ次のようなことを考えています。

<3 年次>

春学期のゼミの進め方については、最初の回に皆で相談して決めます。皆で少し難しい本を一冊読むというやり方もありますし、毎回参加者全員が、その週に本を読んだり調べたりして知ったこと、考えたことを発表し、それについて意見交換をするというやり方もあります。夏休みまでに、自分の勉強のテーマを見つけることを目指します。

秋学期には、自分の考えを組み立て、少しまとまった発表をしてもらう予定です。

<4 年次>

論文の構成を考えたり、細部について議論したりしながら、勉強の成果をまとめるような形で授業を進める予定です。

(2) ゼミ論の有無

有り。(2年間の勉強の成果を1本の論文にまとめてもらいます。)

(3) 評価方法

授業での発表・発言によって評価します。

3. テキスト

使うかどうかも含め、授業内で話し合って決めます。

4. 応募学生に望むこと

授業では、自分自身で問題を見出し、自分自身で考えることを求めます。たいへんですが、楽しくもあります。

できるだけ2つ以上の外国語に親しんでほしいと思っています。

5. 選考方法

面接。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば講義「宗教と哲学」を履修しておいてください。

宮本 大人 教授

1. 演習のテーマ / Theme

〈大衆文化・サブカルチャーのメディアと表現〉

漫画・アニメ・ゲーム・アイドル・音楽・2.5次元・お笑い・Vtuber・テレビドラマ等、各自の関心のある大衆文化・サブカルチャーを、そのメディアと表現に注目して深く読み解く力を身に着けることを目指します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

持ち上がり形式(3年次:演習 A・B→4年次:演習 C・D+特別演習 A・B)

演習 A・B では、グループワーク形式で、フィールドワークを含む様々な観点・方法で大衆文化・サブカルチャーを分析する練習と、学術的な研究論文をしっかりと読む練習をして、基礎力を上げます。その上で3年次の終わりに卒業論文のテーマを決めます。

演習C・Dと特別演習A・Bでは、各自の卒業論文のための調査・分析・執筆作業を、ゼミ全体で共有しながら進めていき、卒業論文集を本にまとめます。

(3) 評価方法 / Evaluation

上記のそれぞれの課題を重要度に応じて配点し総合的に評価します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

卒論を書くこと社会に出てからも役立つ力がめっちゃくちやつきます！

調べる→まとめる→発表する→ほかの人の意見を聞く→それをふまえてレポートや論文にまとめる、という一連の手順を通じて、社会に出てからも必要な、リサーチ能力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を高めていくことができます。

2年間苦楽を共にすることで、卒業後もつながり続けられる仲間ができます！

2万字以上の卒論を書くのはすごく大変なこと、と捉える人も多いのですが、国際日本学部に入る学力のある人なら書けます。学生生活の集大成になる成果をゼミの仲間と一緒に目に見える形で残しましょう。また、みなさんの希望次第ですが、今までは例年明大祭に模擬店を出していましたし、ゼミ旅行や展覧会見学など、課外活動も多いので、濃密な2年間を過ごすことができ、卒業後も、ずっとつながれるHOMEの一つになります。縦のつながりも強く、就活の際のOB・OG訪問など、助けてくれる先輩もたくさんいます。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

エントリー後、オーメジを通じて、志望動機等記した簡単な課題を提出してもらったうえで、オンラインで面接を行います。

6. その他 / Others

個別ガイダンスは行いませんので、演習紹介動画をご覧ください。

森川 嘉一郎 准教授

1. 演習のテーマ / Theme

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市／作品制作

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市の関心領域の中から個々にテーマを設定し、研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作・公表し、その反響を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、アニメを含む各種動画、ゲーム、楽曲、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。在学中にプロの領域に踏み込み、マンガ誌で読切作品の掲載デビューを果たしたり、企業と契約して出資を得ながらインディーゲーム開発を行ったりする人も送り出してきた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<演習 A・B>

調査研究を行うことを選択する場合、各学期の前半は各々の関心領域に沿って、文献の洗い出しや調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながら研究計画を作り上げる。学期後半はフィールドワークや取材調査に重心を移す。各学期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。創作的な「作品」を制作する場合には、学期ごとに成果物を公表するとともに、その反響を簡単なレポートにまとめる。

<演習 C・D>

3年次にまとめた成果と経験を下敷きにししながら、研究計画を再構築し、研究に歴史的・社会的な奥行きを与えていくことを追求する。創作を行う場合は、前年度の達成を踏まえて表現の幅や受容の拡大を目指す。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ1冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でよい）。4年の秋学期には4学期分の成果を編集し、集大成となるゼミ論を構成することも可能。

(3) 評価方法 / Evaluation

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

各々のテーマに沿って適宜指示する。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

ゼミのホームページを見ておくこと：<https://edu.a.la9.jp/>

(パソコンでの閲覧を推奨)

取り組もうとする研究テーマや創作活動が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。なお、まったく未経験の創作活動に挑戦するゼミ生も多い。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

作文と面接。詳細は個別ガイダンスの際に指示する。都合により個別ガイダンスに参加できなかつたり留学中だつたりする場合は、面接方法等について案内するので演習申込期日の 2 日前までに森川のメール宛てに問い合わせること。

6. その他 / Others

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

MORIKAWA, Kaichiro Associate Prof.

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar invites students who wish to research Japanese pop-culture, especially *manga*, *anime* and games, as well as those who are interested in urbanism and design. Studies focusing on particular authors, genres, fan-groups, communities or places, together with their interrelations, are welcome.

The seminar also offers an option to let the students produce art works instead of research papers, on the condition that the works are published and distributed in public venues. There have been members who took up making *manga* fanzines to be distributed at the Comic Market, executing exhibitions, creating short films, making computer games, among many others. Some have entered professional arenas during the course, reaching the point of getting their *manga* published in commercial *manga* magazines or securing corporate sponsorship for their indie game projects.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<seminar A・B>

In the first half of the semester, students are to concentrate on determining their interests and pursuits, together with suitable methods. Digging referential materials are also essential. Every week, the students shall present their progress, followed by discussion. In the second half of the semester, more time shall be devoted to the execution of individual projects. At the end of each semester, the students are to compile their progress into booklet-form or otherwise.

<seminar C・D>

Further research shall be conducted, either by extending one's previous year's project, or by starting a project totally anew. Adding historical and international perspectives are encouraged, as well as the pursuit of a well-designed book-form presentation.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Students are to present their progress in booklet-form at the end of each semester. Students who choose to produce art works may design their presentation otherwise, depending on their medium.

(3) 評価方法 / Evaluation

Weekly presentation (40%) , Semesterly presentation (40%) , Attitude (20%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Individually advised.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Refer to the seminar website: <http://edu.a.la9.jp/>

It is advised to envision what one wants to do in the seminar, and to have taken their first step by one's self, prior to applying to the seminar.

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

Essay and interview. Details shall be announced at the guidance session. Those who are unable to attend, including those who are abroad, should request instructions via Morikawa's e-mail address at least 2 days before the seminar application deadline.

6. その他 / Others

The seminar may hold excursions to provide members with experience in fieldwork.

山脇 啓造 教授

1. 演習のテーマ / Theme 多文化共生のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、東京都や中野区など行政や企業、NPO と連携して、ワークショップやプレゼンコンテストなどイベントを実施したり、多文化共生をテーマにした動画を制作したりします。地域密着、実践志向で社会連携に力を入れるゼミです。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

演習 A・B と演習 C・D は連続して受講してください。17 期生となります。演習 A・B は、最初の 3 カ月に多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、多文化共生をテーマにしたイベント開催や動画制作などに取り組みます。演習 C・D は、同様にイベント開催や動画制作などに取り組みます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

任意

(3) 評価方法 / Evaluation

演習 A・B も演習 C・D も、ゼミ活動への貢献（リーダーシップなど）を総合的に評価します。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

特定のテキストはありませんが、英語の文献も読みます。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。外国人留学生の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合もあり、サークルなどを理由とした欠席は認めません。

5. 入室者選抜方法 / Selection Method

志望理由書（以下のサイトからダウンロードし、必ず面接日の 3 日前までに提出してください：<https://yamawaki-keizo.o0o0.jp/tabunka/seminar/>）と面接（4月5日午前）。志望理由書をもとに一次選考を行います。選考のポイント：問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力

6. その他 / Others

入室希望者は、演習案内ビデオやゼミのホームページに必ず目を通し、個別ガイダンスに参加してください。4月に国内合宿、夏休みや秋休みに海外合宿や国内合宿を行う予定です。イベントは、3年と4年が合同で行います。その準備のため、ゼミの時間が2コマ連続となる場合があります。

2026 年度 国際日本学部演習案内

2026 年 3 月

編集・発行

印刷・発行

明治大学国際日本学部

東京都中野区中野 4-21-1